

ストリートスポーツに進化したけん玉

今、日本の木製おもちゃ「けん玉」が変わろうとしている。けん玉といえば、糸で玉と十字型の棒がつながれた伝統的な子供のおもちゃで、糸で引き上げた玉を棒の先に刺したり、横についた窪みに入れたりして遊ぶ。しかし現代では、大人の愛好家も増え、アクロバティックなスタイルの技が流行している。その中心にいるのはストリートファッションをした若者たちだ。彼らは若者が集う夜の渋谷界隈で、アクロバティックなけん玉をしている。

2012年、アメリカやデンマークからの逆輸入という形で、ストリートスポーツとしてのけん玉が日本に入ってきた。連続技が特徴の自転車競技BMXやスケートボード好きの人々が飛びつき、今ではけん玉が主体のイベントも度々行われている。8月に都内で行われたけん玉イベントには、約30人の大人が集まった。その日初めてけん玉を手にとった参加者の姿もあり、「家に帰ってからけん玉の練習をする、上手になりたい」と意気込んでいた。また、ストリート系のお店では海外から輸入したスタイリッシュなけん玉の販売もしている。ストリートの動きが、けん玉と新たに出会い、熱中する人を増やしている。

けん玉ブームを長年待ち続けていた人がいる。けん玉パフォーマーであり、広島県尾道市でKENDAMA ROCK CAFÉを運営しているモリシタマコト(morimako)さんだ。「けん玉を伝えるのが使命」と語る彼は、けん玉をより多くの人にとって身近なものにしようと活動してきた。今まで日本で続いてきたけん玉はストイックに難易度の高い技を極めていくスタイルであったが、彼は音楽をかけながら、簡単な技を派手に見せるスタイルをとっている。けん玉は手軽でかっこよくて面白いもの。これが彼の主張だからだ。KENDAMA ROCK CAFÉではコーヒーと一緒にけん玉が運ばれ、モリシタさんが丁寧に教えてくれる。店で彼にけん玉を習い、今では教える立場になった人もいる。また時には、店内で大会を催したり、海外プレイヤーを呼んだり、けん玉をする人々の交流の場にもなっている。

「けん玉には音楽と同じ要素がある」とモリシタさんは言う。年齢も人種も言語も関係なく、夢中になって一緒に楽しめる。彼の最終的な目標は、「世界中の人々が銃や武器を捨てケンダマを持とう！」だ。けん玉がメジャースポーツとして発展し、ストリートやロックやパンクなどの様々なカルチャーと融合しながら広まっていく。そしていつか、人々が集まって木のけん玉で柔らかいビートを刻む。そんな未来を彼は夢見ている。

佐藤萌